

特定小電力トランシーバー

UBZ-LF9/LF11 取扱説明書

KENWOOD

KENWOOD CORPORATION

B62-0497-10(A)
09 08 07 06 05 04 03 02 01

お買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

ご使用にあたってのご注意

- 次の機種との組合せによる通話はできませんのでご注意ください。
- ① UBZ-LF9 ← × → UBZ-B5、B7、B700、BA5、LF11
 - ② UBZ-LF11 ← × → UBZ-7、17、L3、L5、LA5、LA7、LA7R、LF9
- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は市街地100～200m、郊外1～2kmです。
 - コンクリートの壁や、自動車などの金属物体の周囲では、通信距離が短くなります。
 - 閉め切った車内など高温になる所に放置しないでください。
 - 本機は多少の水滴がかかっても使用できます。(JIS保護等級2 防滴Ⅱ形相当) 但し直接水につけると故障の原因になりますのでご注意ください。
 - 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。
 - スピーカー／マイク端子のゴムキャップを外しているときや、スピーカー／マイク端子にマイクロホン等が接続されているときは、防滴にはなりません。

電波法をお守りください

- 本機の裏面についている技術基準適合証明ラベルをはがすと使用できません。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いて、これを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

電波妨害にご注意ください

- テレビ、ラジオ、パソコンなどの電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

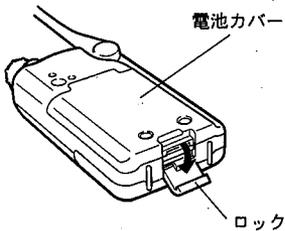
ご使用前の準備

付属品の確認

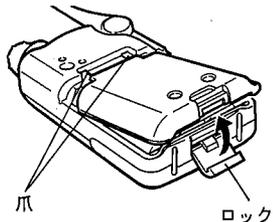
ベルトフック・・・1 取扱説明書・・・1 保証書・・・1 サービス一覧・・・1

電池の入れ方

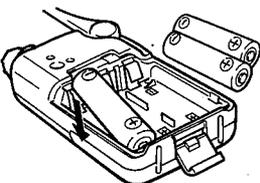
- ① 電池カバーを開けます。
電池交換時、ベルトフックは必ず取り外してください。



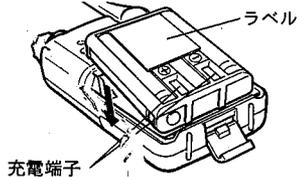
- ③ 電池カバーを閉めます。
はじめに爪を合わせて電池カバーを閉め、ロックをかけます。



- ② 電池を十側から入れます。
+の印の印のとおりに、単3形乾電池を3本入れます。



- オプションのバッテリーパック UPB-1はラベルの極性表示と合わせてください。UPB-1は、本体の+が刻印されている側から入れてください。



●電池の交換時期について

警告音がピーピーピーと4回鳴って、「BATT表示」が点滅したら電源を切り、電池を交換してください。電池が消耗していると電源を入れるたびに警告音が鳴ります。

音量を大きくすると「ブー」という音がする事があります。この時は電池の残量が少ない時です。早めに新しい電池と交換して下さい。



●電池について

アルカリ乾電池(単3形3本: DC 4.5V)、または別売りの専用バッテリーパック(UPB-1: DC3.6V)のご使用をおすすめします。

使用可能時間の目安

電池の種類	使用可能時間
アルカリ乾電池	約60時間
バッテリーパック(UPB-1)	約24時間

測定条件: 送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒のとき



Ni-Cd

ご使用済みのバッテリーパックUPB-1(ニカド電池)は、貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力をお願いいたします。

●電池に関する注意

- 乾電池は使い方を誤ると、破裂や破損、液もれの恐れがあります。次のことを必ずお守りください。
1. 使用した乾電池と新しい乾電池を混ぜて使用しない。
 2. 同じ種類の乾電池を使用する。
 3. 乾電池は充電しない。
 4. 火の中へ投げ込まない。
 5. ショート(短絡)、分解、加熱しない。
 6. 長期間使用しない時は乾電池を電池ケースから取り出しておく。

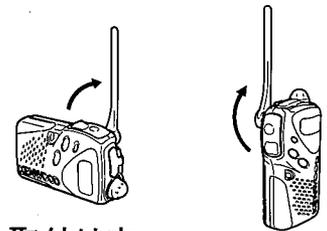
●単3形ニカド電池について

単3形ニカド電池は使用しないでください。ニカド電池は、端子や電池被覆がショートして発熱し、電池ケースや本体が壊れることがあります。

■アンテナの立て方

本機を使用する時は必ずアンテナを垂直に立ててご使用ください。アンテナを立てる時は根元を持って回します。

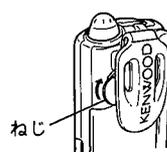
アンテナは2箇所です。止まります。



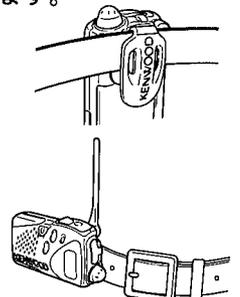
■ベルトフックの取付け方

ベルトフックはタテ・ヨコどちら向きでもベルトに止められます。

- ① 本体背面の取付け穴にベルトフックの裏のねじを合わせてから締めます。
- ② ベルトにベルトフックを通します。

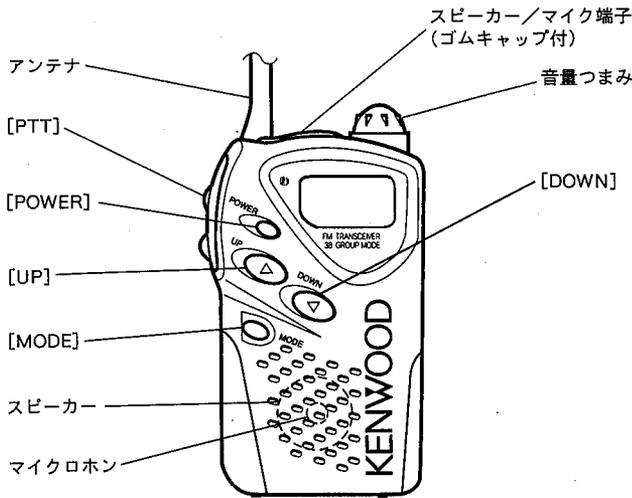


タテ・ヨコの止め位置を変える時は、ねじをゆるめて、ベルトフックを90度回してから締めてください。



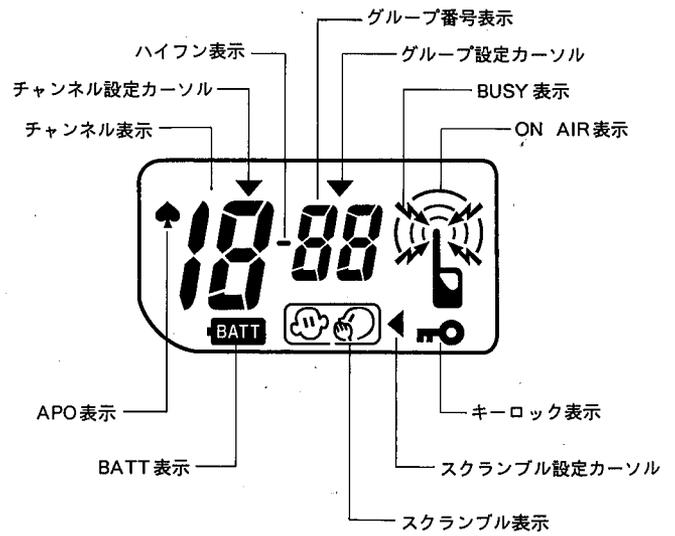
各部の名前

■本体部



[] は操作で使用するキーの名前です。

■表示部



通常の話のしかた

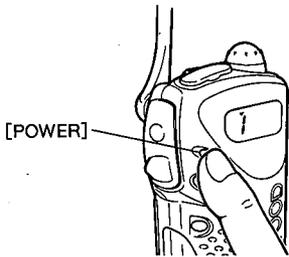
相手と同一のチャンネルに合わせ、送信、受信を交互に切り替えながら通話します。まず、2台で通話テストを行ってください。

1.電源を入れる

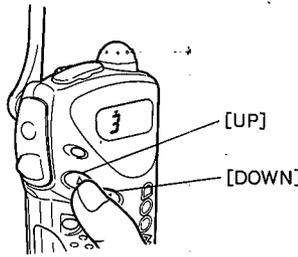
[POWER] を表示が出るまで押す

2. [UP] / [DOWN] で

チャンネルを合わせる



[POWER] を表示が消えるまで押すと電源は切れます。



チャンネルは次の中から選べます。
 UBZ-LF9: 1~9チャンネル
 UBZ-LF11: 1~11チャンネル

(参考)

[UP] か [DOWN] を1秒以上押し続けると、チャンネル番号は早送りされます。

(注意)

- グループ通話モードやスクランブル通話モードになっていたら解除してください (3ページ)。
- 設定したチャンネルをだれかが使っている時は、相手と打合せのうえ他のチャンネルへ切り替えてください。

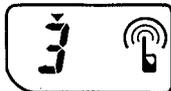
3. さっそく通話してみよう

送信

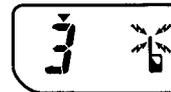
[PTT] (トークスイッチ) を押しながら話す

受信

待っているだけで... ほら、聞こえる 聞こえる!!



←送信すると“ON AIR表示”が点灯します。



←受信すると“BUSY表示”が点灯します。

(注意)

- “BUSY表示” が点灯している時は、[PTT] を押しても「プー」と送信禁止音が鳴るだけで、送信はできません。“BUSY表示”が消えるまでお待ちください。
- 通話中はキーロックしておくこと、間違ってもチャンネルやモードは変わらないので安心です (4ページ「キーロックする」)。

■他の通話モードをお使いになるとき

本機には次の通話モードもあります。必要に応じて設定してください (3ページ「通話モードの設定」)。通話のしかたは同じです。

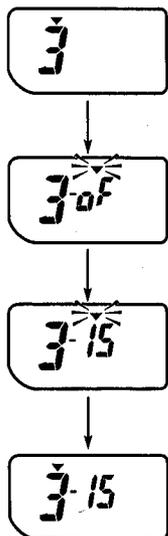
- グループ通話モード
 - ... 仲間どうして通話したいとき。
- スクランブル通話モード
 - ... 他の人に聞かれたくないとき。

通話モードの設定



■グループ通話モードの設定

チャンネルとグループ番号が同じ相手の声だけが聞こえます。



- ① [MODE] を押す
“グループ設定カーソル” が点滅し、“OF” が表示されます。10秒以内に次の操作をしてください。
- ② [UP] か [DOWN] を押し、希望の“グループ番号”を表示させます(例: 15)。
- ③ [MODE] を2回押す、あるいはそのまま10秒待つ
カーソルがチャンネル設定位置に戻り、グループ番号が設定されます。

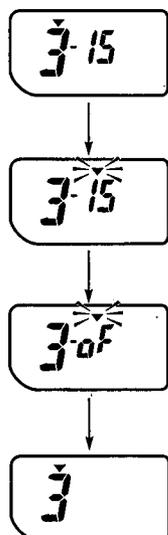
(参考)

- グループ番号は1回設定すると、全チャンネルに共通で使えます。
- グループ番号は 01~38 の中から選べます。
- ここで“OF”表示を選ぶとグループ番号は解除されます。
- [UP] か [DOWN] を1秒以上押し続けると、グループ番号は早送りされます。

(注意)

グループ通話でも、同じチャンネルの電波は全て受信されます。他のグループがそのチャンネルを使っていると、音声は聞こえませんが受信状態になり“BUSY表示”が点灯するので、[PTT] を押してもブーと鳴り送信はできません。

●グループ通話モードを解除するには

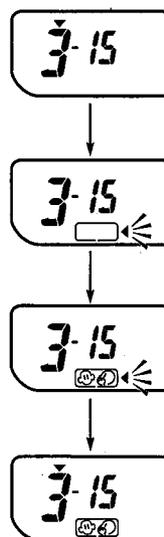


- ① [MODE] を押す
“グループ設定カーソル” が点滅します。10秒以内に次の操作をしてください。
- ② [UP] か [DOWN] を押し、“OF” を表示させます。
- ③ [MODE] を押す、あるいはそのまま10秒待つ
カーソルがチャンネル設定位置に戻り、グループ通話モードが解除されます。



■スクランブル通話モードの設定

秘話になり、スクランブル通話にしていない人には会話は聞き取れません。スクランブルはグループ通話と同時に使いますので、あらかじめグループ通話モードに設定しておきます (3 ページ)。

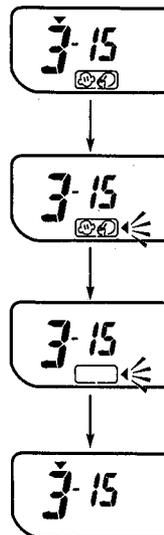


- ① [MODE] を2回押す
“スクランブル設定カーソル” が点滅します。
- ② [UP] か [DOWN] を押す
“スクランブル表示” が点灯します。
- ③ [MODE] を押す、あるいはそのまま10秒待つ
カーソルがチャンネル設定位置に戻り、スクランブルが設定されます。

(注意)

第三者でもグループ番号とスクランブル通話が一致した場合は傍受できます。高度な機密を要する通話に使うことはお薦めできません。

●スクランブル通話モードを解除するには



- ① [MODE] を2回押す
“スクランブル設定カーソル” が点滅します。
- ② [UP] か [DOWN] を押す
“スクランブル表示” を消します。
- ③ [MODE] を押す、あるいはそのまま10秒待つ
カーソルがチャンネル設定位置に戻り、スクランブル通話モードが解除されます。

(注意)

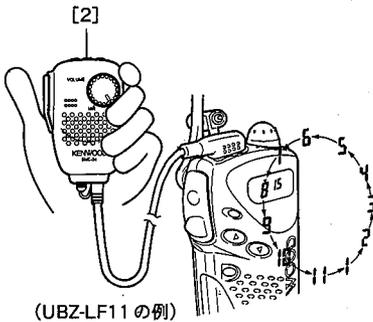
チャンネル、グループ番号、スクランブルの設定は通話する相手と同一に合わせてください。設定がちがうと通話できませんのでご注意ください。

便利な機能

■オートチャンネルセレクト機能

(オプションのリモコン対応マイク接続時のみ)

あらかじめ仲間と設定しておいたチャンネルが混んでいて、いざ連絡したいときに話ができない。そんなとき空いているチャンネルを自動的に捜してくれるのがオートチャンネルセレクト機能です。仲間を捜す目印にグループ番号を使います。全員、同じグループ番号にして、あらかじめグループ通話モードまたはスクランブル通話モードに設定しておいてください (3ページ)。



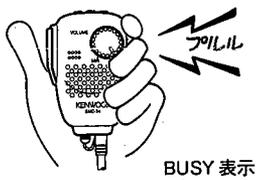
- ①全員オプションマイクの [2] を1秒以上押す
左図のように“チャンネル表示”が変わり続けます。また、チャンネルセレクト実行中は“ハイフン表示”が消えます。

(参考)
イラストのオプションマイクは SMC-34 を使った例です。



- ②呼出す側は

[PTT] を2~3秒押し続ける
その後、通常よりゆっくり呼びかけて、相手がそのチャンネルで応答してくれるのを待ちます。この間、チャンネルの動きは止まります。



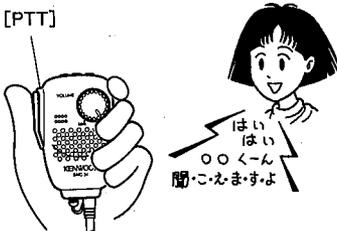
- ③呼出される側は

“BUSY表示”が点灯し、「プッルル」と鳴って、チャンネルの動きが停止するので、呼出されていることがわかります。

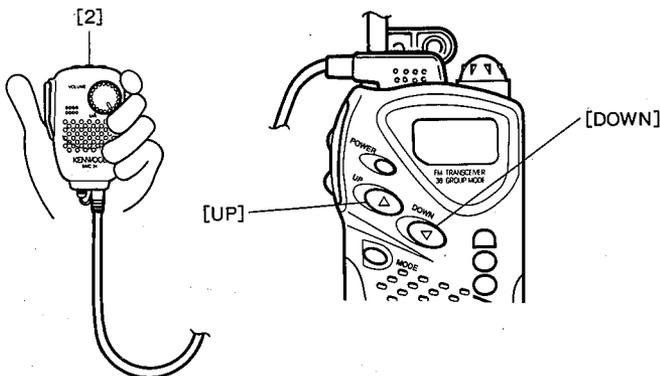


- ④呼出されたら

“BUSY表示”が消えるのを待って、[PTT] を押して応答します。
応答は10秒以内に行ってください。10秒以上送信、受信が無いと、チャンネルセレクトを再開します。



- オートチャンネルセレクト機能を解除するには
オートチャンネルセレクト中に [UP] か [DOWN] またはオプションマイクの [2] を押します。



こんなこともできます

■キーロックする (誤操作防止)

通話中はキーロックしておくこと、間違ってもキーを押してもチャンネルやモードは変わらないので安心です。

- ①いったん電源を切る
- ② [MODE] を押しながら電源を入れる
“キーロック表示” () が点灯します。
[POWER]、[PTT]、[音量つまみ] 以外は動作しなくなります。



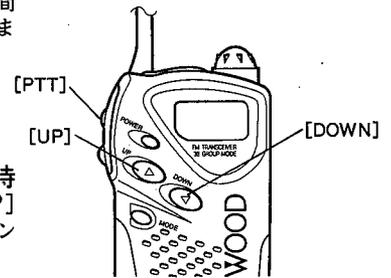
キーロックを解除するには①②の操作を繰り返し、“キーロック表示”が消えた状態にします。

■相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音 (コールトーン) で呼出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

- コールトーン1で呼出す時

[PTT] を押したまま
[DOWN] を押すと、その間コールトーン1が送出されます。



- コールトーン2で呼出す時

[PTT] を押したまま [UP] を押すと、その間コールトーン2が送出されます。

- コールトーン3で呼出す時
(オプションのリモコン対応マイク接続時のみ)
[3] を1回押すとコールトーン3が3回送出されます。



■コールトーンの音色を変更する

コールトーン1と2は音色を変更することができます。グループで通信を行う場合、個別にコールトーンを設定すると、呼出し人を区別することができます。

- コールトーン1の音色を変更する

- ①いったん電源を切る
- ② [PTT] と [DOWN] を押しながら電源を入れる
①と②の操作を繰り返すたびに2種類の音色が交互に変わります。変更されたコールトーンが鳴ります。

- コールトーン2の音色を変更する

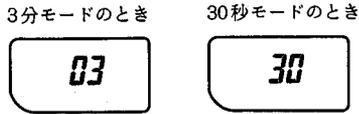
- ①いったん電源を切る
- ② [PTT] と [UP] を押しながら電源を入れる
①と②の操作を繰り返すたびに2種類の音色が交互に変わります。変更されたコールトーンが鳴ります。

(注意)
コールトーン3は音色を変える事はできません。

■通信時間の切り替え

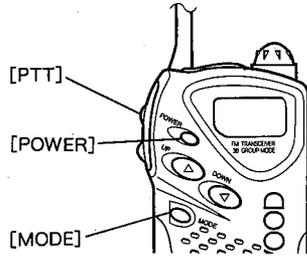
お使いになる状況に合わせて、3分（通話=送受信）モードか30秒（送信）モードを選択できます。工場出荷時は3分モードです。

- ① いったん電源を切る
- ② [MODE] と [PTT] を押しながら電源を入れると次のように表示されます。



- ③ [MODE] と [PTT] を離すと通話モードが切り替わります。

①～②の操作を繰り返すと3分モードと30秒モードが交互に切り替わります。



(参考)

● 3分モードとは

3分以上の連続通話はできません。30秒前になると数字表示が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前に“ピッ”と通信時間制限予告音が鳴り、3分経つと通信をストップして、[PTT] を離すまで“ブー”と通信時間制限告知音が鳴り続けます。その後2秒間は [PTT] を押ししても送信はできません。

● 30秒モードとは

30秒以上の連続送信はできません。10秒前になると数字表示が点滅しながらカウントダウンを始めます。5秒前に“ピッ”と通信時間制限予告音が鳴り、30秒経つと通信はストップして、[PTT] を離すまで“ブー”と通信時間制限告知音が鳴り続けます。その後2秒間は [PTT] を押ししても送信はできません。

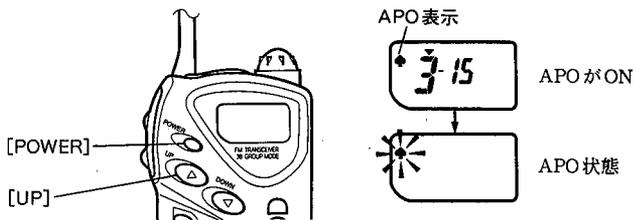
■ APO (オート・パワー・オフ) をセットする

APOは電源を切り忘れた時働く節電機能です。1時間59分間にも信号を受信せず、送信などの操作もしなかった時は、電源の切り忘れと見なして告知音を鳴らし、さらに1分間おなじ状態が続くと（計2時間）自動的に電源を切り、APO状態になります。

- ① いったん電源を切る
- ② [UP] を押しながら電源を入れる

APOがONになり“APO表示”が点灯します。APOをOFFにするには①②の操作を繰り返します。

APO機能が動作し、電源が切れると“APO表示”が点滅し、APO状態になります。



■ APO 状態の解除

- ① “APO表示” が点滅している事を確認する
- ② [POWER] を押して電源を入れる

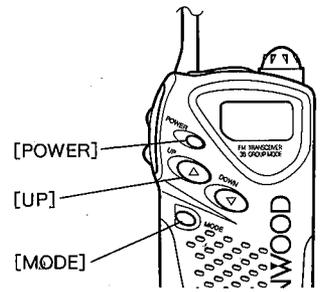
(注意)

- APO状態では、すべての機能は停止し、受信も送信もできません。また、電源OFFではありませんので多少の電流は流れています。
- キーロック設定中はAPO機能のON/OFFの切り替えはできません。
- オートチャンネルセレクト機能実行中は、APOは動作しません。

■ 照明の常時点灯

暗い場所で操作する時に表示部がよく見えるように、照明を常に点灯しておく機能です。

- ① いったん電源を切る
 - ② [MODE] と [UP] を押しながら電源を入れる
- ①②の操作を行うたびに、照明の常時点灯のON/OFFが切り替わります。ONで照明が点灯し、OFFで消灯します。



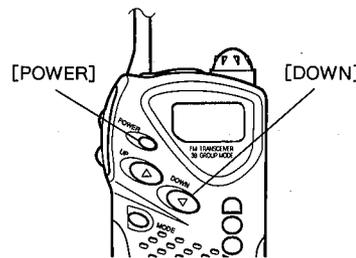
(注意)

照明を常時点灯にすると電池の消耗が早くなります。

■ ビープ音を止める

キー操作をしたときは確認のためビープ音が鳴ります。この音が耳ざわりな時は止めることもできます。

- ① いったん電源を切る
 - ② [DOWN] を押しながら電源を入れる
- ただし、動作上重要な意味を持つ、次の音は止めることはできません。



- 電池消費時の警告音 (1 ページ)
- 送信禁止音 (2 ページ)
- 通信時間制限予告音 (5 ページ)
- 通信時間制限告知音 (5 ページ)
- APO 告知音 (5 ページ)

解除するには①②の操作を繰り返します。

(注意)

キーロック設定中はビープ音のON/OFFの切り替えはできません。

こんな機能もあります

■ モニター

受信時音声が入り切れる場合はモニターにすると、雑音にまじって音声が聞こえることがあります。モニター中はBUSY表示が点灯します。

● 常時モニター

- ① いったん電源を切る
 - ② [MODE] と [DOWN] を押しながら電源を入れる
- この機能を解除するには、電源を切るか、オートチャンネルセレクト機能をONにします。

- 一時モニター (オプションのリモコン対応マイク接続時のみ) オプションマイクの [1] を押し続けている間だけ信号の状態をモニターできます。

(注意)

グループ通話モードのときモニターにすると、そのチャンネルで受信した全ての音声が入ります (3ページ「グループ通話モードの設定」)。

■ 表示部の自動照明機能

キー操作時に表示部がよく見えるように照明を自動的に点灯/消灯する機能です。

電源を入れるとき点灯し、その後キー操作がないと5秒後に消灯します。また、キー操作を行うときも ([PTT] の操作は除く)、自動的に点灯します。その後キー入力がないと5秒後に消灯します。この機能はOFFすることはできません。

■ バッテリーセーブ機能

受信待ち受け状態で、キー操作しない状態が10秒以上続くと、バッテリーセーブ機能が働き電池の無駄な消耗を防ぎます。BUSYが検出されるか、キー操作が行われるとバッテリーセーブ動作は解除されます。この機能はOFFすることはできません。

(注意)

オートチャンネルセレクト機能実行中は動作しません。

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に下記の「症状による確認項目」を点検してください。それでも回復しない場合や、動作がおかしい場合、キーを押しても反応しないときは、リセットしてみてください。リセットすると、設定してある内容は全て消去され、工場出荷時の状態になります。

リセットのしかた

1. いったん電源を切ります。
 2. [UP] と [DOWN] を押しながら電源を入れます。
 3. 表示が全部点灯していることを確認します。
 4. [UP] と [DOWN] を離します。
- 表示はチャンネル1だけになり初期状態に戻ります。

症状による確認項目

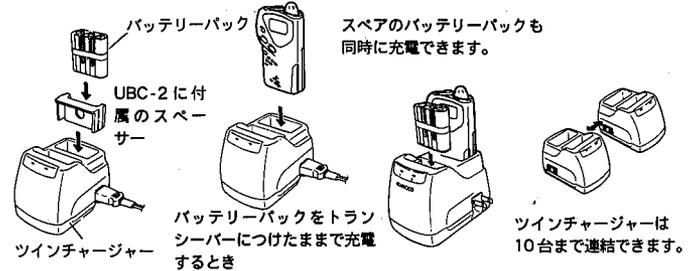
症状	原因	処置
電源が入らない。	a. 電池の入れ方が違う。 b. 電池が切れている。	a. +を正しく入れる。(1ページ) b. 新しい電池に交換する。(1ページ)
受信できない。 音量つまみを回しても音が出ない。	[PTT] が押されて送信中になっている。	[PTT] をはなす。(2ページ)
相手と通話できない。	a. チャンネルかグループ番号が違う。 b. 相手との距離が離れ過ぎている。 c. 通話モードが違っている。	a. チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる。(2、3ページ) b. 1ページの通話のできる距離を目安に通話する。(1ページ) c. 相手と同じ通話モードにする。(3ページ)
どのキーを押しても表示が変化しない。	キーロックになっている。	キーロックを解除する。(4ページ)
照明が消えない。	照明の常時点灯がONになっている。	いったん電源を切り、[MODE] と [UP] を押しながら電源を入れます。(5ページ)
電池がすぐ無くなる。	照明の常時点灯をよく使う。	常時点灯が必要な時だけ使う。(5ページ)
聞きとれない音が入ったり、何も聞こえないのに、BUSY表示が点灯する。	同じチャンネルで別のグループ番号を使っているグループがいる。 スクランブル通話しているグループがいる。	そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更します。 オートチャンネルセレクトで他の空いているチャンネルを捜します。(4ページ)
チャンネルセレクトを止められない。	キーロックになっている。	キーロックを解除します。(4ページ)
音量を大きくすると「ブー」という音がする。 表示がすぐ消える。	電池が消耗している。	新しい電池に交換します。(1ページ)

オプション

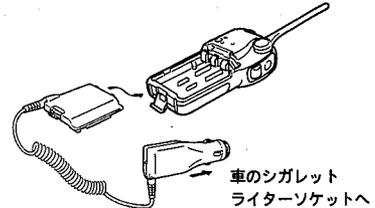
- UPB-1
バッテリーパック (3.6V 700mAh)
- UBC-2
ツインチャージャー
- UCA-4
カー電源アダプタ
- HMC-3
VOX. PTT付きヘッドセット
- HS-9
プチホン型イヤホン
- EMC-1
イヤホン付クリップマイクロホン
- USC-3
キャリングケース
- HMC-4
リモコン対応 VOX/PTT/TOT 切換式ヘッドセット
- SMC-33
リモコン対応スピーカーマイクロホン
- SMC-34
リモコン対応ボリューム付スピーカーマイクロホン

オプションの使い方

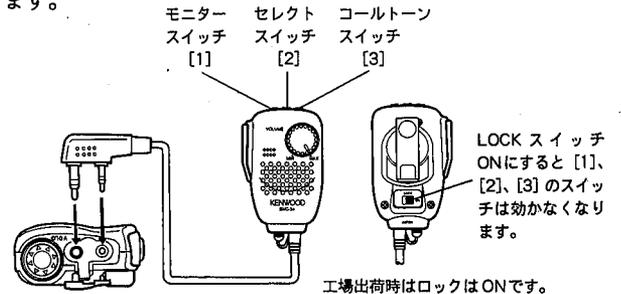
- UPB-1 (バッテリーパック 3.6V 700mAh)
- UBC-2 (ツインチャージャー 充電時間: 約8時間)



- UCA-4 (カー電源アダプタ)



- SMC-34 (リモコン対応ボリューム付スピーカーマイクロホン) スピーカー/マイク端子に接続してトランシーバーをコントロールします。



(注意)

スピーカー/マイク端子に接続したとき、防滴にはなりません。

アフターサービスについて

保証書

保証書は必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

保証期間

保証期間はご購入の日より1年間です。正常なご使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合は、保証書の規定に従って修理いたします。

修理

お手数ですが製品に保証書を添えて、ご購入の販売店または当社サービスセンターにご相談ください。保証期間経過後の修理についてはご購入の販売店または当社サービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により有料で修理いたします。

定格

送受信周波数	422.200~422.300MHz (UBZ-LF9) 422.050~422.175MHz (UBZ-LF11) 12.5kHzステップ 9CH (UBZ-LF9) 11CH (UBZ-LF11)
電波型式	F3E
周波数安定度	±4ppm (-10°C~+50°C)
消費電流	送信時 70mA以下 受信定格出力時 120mA以下 受信待ち受け時 50mA以下 セーブ時(平均) 約10mA
性能保証温度範囲	-10°C~+50°C
電源電圧	定格電圧4.5V
送信出力	10mW
低周波出力	≥0mW以上(定格電圧、8Ω負荷、10%歪時)
受信感度	-8dBμ以下(12dB SINAD)
寸法mm(突起物含まず)	幅(56)×高さ(101)×奥行き(26)
重量	約190g(単3電池3本、ベルトクリップを含む)